



ひまわり



桶川市青少年健全育成市民会議

第 36 号

平成25年1月1日(年1回発行)

発行 桶川市青少年健全育成市民会議

編集 青少年健全育成市民会議

広報発行委員会

事務局 桶川市教育委員会生涯学習スポーツ課

☎728-4111

✉shogai@city.okegawa.lg.jp



今に活かす江戸の知恵 ～家庭・地域で子どもを育てる～ 和楽舎代表 辻川 牧子 さん

「子は世の宝」

和服でお見えになった辻川先生は、優しくよく通る声で講演を始められました。

江戸時代は平和な世の中が長く続いたので、その恩恵を受けて文化が発展し、町人たちの教養も高まりました。江戸の人々は「心がなければ人間ではない」と心をなにより大切にし、心にゆとりを持つ状態を良しとしました。自分の生に感謝し、人に対して敬意、誠意を持つこと、これが江戸の「いき」ということだそうです。この考えは子育てにも反映されました。

江戸時代、子どもは「世の宝」として、親をはじめ地域の人々に大切にされました。幕末から明治にかけて来日した外国人の多くが子どもたちを常に見守り、かわいがる大人たち、笑顔いっぱいの子どもたちを見て驚き、「日本は子どもの天国」というような言葉を残しているそうです。と比べてただ甘やかしているのではなく、自立を目指して、あいさつ、言葉遣いなど

を年齢に応じて教え、自分も人も大切にできるよう、「人間力」を身に付けさせました。そしてその教え方は、言い聞かせて教えるのではなく、やってみせて見習わせていました。こうして子を大切に育てて、次世代につながるのすべての大人の役割と皆心得ていました。育てた子にはその子に合った居場所を与え、「この世にいらぬ人はなし」、みんなが良い状態で暮らせるように心配りをしたそうです。

このことはまさに、今必要とされていることではないでしょうか。お話の中でもう一つ印象深かったのは言葉(ことだま)のお話でした。言葉には力があり、良い言葉は良いことを引き寄せ、悪い言葉は悪いことを引き寄せるという考えがあります。江戸の人は特に「刺し言葉」―人の胸に刺さるような言葉を使わないよう、子どもたちにも厳しく戒めていました。刺し言葉のような悪い言葉は人の心を傷つけますが、実は自分も傷つけている、同じ使うなら明るく温かい言葉を使いましょう、というお

話でした。

辻川先生は声高にものをおっしゃったり、大きな身振りをしたり、ドラマチックな展開のお話をしたわけではありません。終始静かな口調で、美しい言葉を使いお話をされていきました。しかしその静かな言葉は皆の心にしみじみ、大きく心を揺り動かす、目頭を押さえる方も見受けられるくらい、感動がひろがっていきました。まさに言葉の力がなした技です。

声高にものをいわなくても人の心を動かせることがよくわかりました。このように静かで心にしみる言葉で子どもたちに語りかけたいと思えました。(江)

講師プロフィール

これまでカウンセリングなどの仕事をされ、1994年より「江戸しぐさ」を習い、現在は江戸時代を中心とした昔の人々の生き方を学びながら、子育て、助け合い、自然に添う暮らし方や商売繁盛のことなど、さまざまな講演をされております。

第二十五回桶川市青少年健全育成市民大会

平成二十四年十一月二十五日（日）桶川東公民館大ホールにおいて、「第二十五回桶川市青少年健全育成市民大会」が開催されました。

開会行事に続き、「青少年育成功労賞」「善行賞」の表彰が行われ、さらに市内の小・中学生が真剣に取り組んだ「私たちの主張」作文コンクール及び「家庭の日」ポスターコンクールの表彰と作文コンクール優秀作品の朗読が行われました。

その後、和楽舎の代表、辻川牧子先生による講演がありました。多くの人との関わり合いの

会長就任あいさつ



桶川市青少年健全育成市民会議会長
洪谷 光章

新年明けましておめでとうございませう。

皆様には、健やかに平成二十五年の新春をお迎えのこととお喜び申し上げます。

二十四年度より、桶川市青少年健全育成市民会議の会長を務めさせていただくことになりま

中で育まれる子どもたち。その想いが、被災地へ世界へと向かっていったらと願った大会でした。（吉）



した洪谷光章です。未熟者ですが誠心誠意、心をこめて務めさせていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

目まぐるしく変わる現代社会にしっかりと立ち向かえる、頼もしくて勇ましい青少年を育むために皆様のご協力をよろしくお願いたします。そして、「明るく元気で住みよいまちづくり」につなげるためにも市民の皆様のご指導とご協力をお願い申し上げます。

青少年健全育成功労賞表彰

- | | |
|-----------------|-----------|
| 桶川市スポーツ少年団 | 小野沢 滋 |
| 桶川地区更生保護女性会 | 大木 緑 |
| 鴻巣地区保護司会桶川支部 | 砂川 貢 |
| 桶川カテナルスポーツ少年団 | 鈴木 正廣 |
| 桶川市子ども会育成連絡協議会 | 吉田 洋子 |
| 桶川サッカースポーツ少年団 | 清水 亨康 |
| 桶川中学校PTA | 滝瀬 豊 |
| 桶川イグルスポーツ少年団 | 三上 正己 |
| 桶川市合気道連盟 | 岩田 俊浩 |
| 桶川北ミニバスケットクラブ | 石川 顕一 |
| 桶川マングアロススポーツ少年団 | 古井 明浩 |
| 桶川市青少年相談員協議会 | 上代 紀宏 |
| 桶川市民生委員児童委員協議会 | 桶川市主任児童委員 |
| 川田谷ヘアースポーツ少年団 | 鈴木 勲 |



善行賞表彰

埼玉県立桶川高等学校
女子バスケットボール部

桶川駅前において、東日本震災の復興支援及びマラリア撲滅を目的とした募金活動を行うなど青少年の模範となる活動を行いました。

「家庭の日」ポスターコンクール

- 優秀賞
家族になって12ねん
日出谷小学校六年 高橋麻裕子
- 家族で一丸
川田谷小学校六年 三村 莉杏
- みんなでひまわり畑へ
川田谷小学校五年 深谷 晏里
- みんなえがお
桶川東中学校二年 松枝 亜美
- 日常生活
桶川東中学校一年 加藤 奈央
- みんなで家庭菜園
桶川西中学校二年 矢澤 真友



「私たちの主張」作文コンクール

- 優秀賞
私の夢
桶川東小学校六年 菱沼 野花
- いじめについて考える
日出谷小学校六年 若林 大夢
- 国際交流はまず日本を知ることから
加納小学校六年 小野口友里菜
- スタート
桶川西中学校三年 渡辺 綾
- 「さよなら」も言えずに……
加納中学校二年 長谷川美穂
- 戦争から学ぶこと
加納中学校三年 安藤有理奈
- 優良賞
小学生にも選挙けんを
桶川東小学校五年 鈴木 伶惟
- 美しい自然を大切に
朝日小学校五年 宮内 尊康
- こんな大人になりたいな
桶川小学校五年 倉持 瑛
- 私の夏
桶川西中学校二年 眞下 愛梨
- 私は、バレーをがんばっています
加納中学校一年 増子 綺音
- 目指すは金賞
桶川西中学校一年 西山菜々子



※敬称略

「家庭の日」ポスターコンクール

優秀賞作品



高橋 麻裕子(日出谷小 六年)



加藤 奈央(桶川東中 一年)



深谷 晏里(川田谷小 五年)



矢澤 真友(桶川西中 二年)



三村 莉杏(川田谷小 六年)



松枝 亜美(桶川東中 二年)

親子ふれあいウォーク2012 加納・川田谷

十月六日(土) 加納地区のふれあいウォークが行われ、二組五十八名の参加者が集まりました。朝八時三十分から、桶川市教育委員会前にて受付が開始され、説明を聞いた後、八時五十五分に出発しました。ポツポツ雨も落ちてきましたが、元気に歩いているうちにやんでしまいました。後から聞いた話では、上尾や大宮は、どしゃ降りの雨だったそうで、日頃の行いの良い人達ばかり集まったのだ!!と思えました。加納の秋の風景を見つけながら、明星院へ向かいました。道端には、彼岸花が咲いていました。初めて見たのですが、白い彼岸花を見つけ、びっくりしました。氷川諏訪神社でクイズのヒントを見つけ、さらさら獅子舞の説明をもらったら、いよいよ加納小に向け、タイムトライアル。地図で示されていない道をコマ図を見ながら歩き、設定時間でつけば満点。時間のズレは、マイナスされません。加納小でもクイズがあり、解いた人から再び歩き出し、最終チェックポイントで採点してもらい、ゴールしました。八・



五km。小川にいたザリガニ。小魚の群れ。秋の花や柿等々、加納小の自然を体験できました。

その二週間後の十月二十七日(土)には、川田谷地区のふれあいウォークが行われ、三十七組八十七名の参加者が農業センターに集まりました。八時五十分に出発。薬師堂集会所を指します。地図を見ているのに道を外れそうになったりとアクシデントもありますが、秋の景色を見ながら、薬師堂集会所から三田原集会所まで、タイムトライアル。途中、熊野神社でクイズに答え、コマ図を見ながら

歩きます。道に迷いそうな場所には、立て札と風船の目印があり、少し不安になりながらもコマ図を見つけ、ホッとして歩を進めました。晴れていれば土手から素晴らしい富士山が見えるのですが、曇り空で残念でした。三田原集会所では、サプライズオケちゃんが登場してくれて、記念写真を撮りました。そこからゴールの農業センターに向け、ラストスパート。ゴールでは、子ども会の人たちが作ってくれたおいしい豚汁が待っていました。加納小PTAの方々、桶川市子ども会育成連絡協議会の方々、川田谷の子ども会の方々、地域の皆様、ありがとうございます。(大)



地域と子どもを考える

地域で子どもを育てる。よく聞く言葉ではありますが、正直、言葉の意味がどんどんわかりにくくなっているように感じます。私たちにとって地域が遠いものになっているからでしょうか。「絆」が叫ばれている今、改めて地域と子ども、さらには家庭について考えてみました。

子どもを守る



最近いじめや自殺のニュースが多く、子を持つ親として大変胸が痛みます。どうして気づいてやれないのでしょうか。どうして子どもは言わないのでしょうか。地域で子どもを守るとはどういうことなのでしょう。親でさえ、いじめになかなか気づきません。それを地域の方がどうやって気づけるのでしょうか。普段から、よく顔を見て、よく声をかけ、様子を見ていたら、もう少し早く気づくのではないのでしょうか。

近頃は、昔のように、子どもが悪いことをした時などに近所の人々が注意したり、怒ったりしなくなりました。スニーカーで走り回る子ども、病院で騒ぐ子ども、電車のシートに靴を履いたまま窓の外を眺めている子どもなど、保護者がそばにいても注意しない。それでは、子どもはマナーがわかりません。きちんと公共の場でのマナーを教えることは、大人の役目だと思います。今、このように忙しい時代だからこそ、子どもに目を向け、子どもの声に耳を傾け、地域一帯で見守っていかなければと強く思うばかりです。(高)

おかげさまで



私には四人の子どもがいます。この子たちを無事にここまで育てることができたのは親の力だけではありません。多くの人のおかげです。

子どもたちがまだ小さいころ、下の子の世話で手の回らない私を見て、上の子の面倒を見ていただいたり、逆に上の子の用事があるときには下の子の面倒を見ていただいたこともありました。

「○○ちゃんが一人で公園にいるよ。大丈夫?」「このあいだ○○(ちなみに学区外のとては遠いところで、学校では行つてはいけなさと指導されている場所)にいたよ」などの情報をもたらしたり、学校の行き帰りに声をかけていただいたり、一緒に遊んでもらったり。子どもの安全のためにGPS付きの携帯を持たせたいと思うようなことは一度もなく済みました。今思い返して、あらためてありがたさでいっぱいになります。そして多くの、いろいろな年代、いろいろな個性を持つ方々とのふれあいは子どもの世界を広げ、豊かにしてくれたと思います。子どものためばかりではあり

ません。子どもを通して私自身の世界も広く、豊かになり、成長させてもらったと思っっています。(江)

地域と子どもを考える 二つのゆとり



私たちは今、時代に、この世の中に流されているように思います。また、青少年をとりまく環境も益々厳しく、難しくなっています。

いつの世も、子どもや家族の笑顔を見るとほっとします。なんととも言えないこの心のやすらぎは、「家族の和」が起点になっています。良いことでも、言いづらいことでもナンデモ語り合い、話し合うことです。

そして、冠婚葬祭だけではなく、お彼岸、お盆、家族の誕生日などには皆が集まりいろいろと談義することによって、わかまりが払拭されるのです。

先祖(祖父・祖母・両親)に感謝するとともに、家族を大切にしたい、ひとりで生まれてきたわけではなく、ひとりで大きくなつたわけでもないことをもう一度認識したとき、おのずと母の生みの苦しみや海より深い母の愛情を心の底から味わうのです。

節目ふしめに集い、その度に

確かめ合ったり思い合ったり甘えたりすることを重ねて積み上げていくことが一番大事です。そうすることで自らの自信がみなぎってきます。今叫ばれている「絆」もここからおのずと生まれてくると思います。

いつなんどきでも心にゆとりのスペースを置き、隣近所、地域とあいさつを交わしながら自分達の存在をアピールすることで孤立しないように、また、させないようにして、お互いに助け合いましょう。(渡)

家族大好き、 桶川大好き♡ そんな子どもに育ってほしいなあ...



朝起きた時に家族にちゃんと「おはよう!」って声をかけますか?外から戻ったとき、「ただいま♡」「おかえり!」の声が出てますか?脱いだ靴はきちんと揃えていますか?

これは子どもへの質問ではありません。読んでくださっている「あなた」に大人の方に聞きたいのです。青少年健全育成の健全という言葉は固いですが、「健全に育ってほしい子どもたちには、まず身近な大人が良い手本、見本とならなくちゃ」です。「選挙権を持つ二十歳になったら社会人として生きていける

よう、基盤を身につけさせたい。』

これはある教師の言葉ですが、親のやるべき事、子育ての目標として、今まさに毎日の生活の中で日々実践されていると思います。生活は毎日同じように繰り返されていますが、同じ日は二度とないですよ。春から夏、秋から冬と季節が巡っても、子育てに同じ時間はありません。

今この一瞬一瞬に「人間」を育てているのです。家庭も学校も地域も…。『社会』お互いに気持ち良く過ごせる世界』の中で人間として生きていく力を身につける…そのためには、まず家族と家庭が大事です。どうか大人としての気配り、気遣いを大切な家庭のために！

そして、近所の方にもニコッとあいさつ！桶川市民全員にニコッとあいさつ♥まわり中がニコニコしていたら、子どもはニコニコ育って、この街も大好き♥になってほしいです。(加)

自分の存在を認めてほしい



近年、子どもの自殺の要因として友達？からの集団のいじめがあげられています。いじめの側の家庭内の親子関係が背景にあります。いじめと認識しないまま遊びの

延長線上にある命の危機。最小単位の家庭のなかの希薄なつながりが一番の原因だと思えます。

超スピードで過ぎていく社会の変化に、親も子も対応できないまま一生懸命に生きていて日常生活にゆとりがありません。家庭だけでは淋しい気持ちを持つた子どもたちを救えなくなっています。

自分の存在を認めてほしい、今日も心の叫びが聞こえてきます。大人も子どもも生きていく以上当たり前のことです。子どもたちには自分からもアピールできるようなたくましさをつけて欲しいと願いながら、子どもの健全育成に関わっている各団体もそれぞれの立場で一生懸命頑張っています。しかし、それらの団体も情報交換がなされていらないため単発に発信するにとどまっているように思います。

ある町では、その土地が大好きで出ていかないし、出ていっても帰ってくると思います。住民にとって居心地のいい、愛着のある場所なのです。桶川市の子どもたちに少しでもこのように感じてもらえるように、みんなで連携して魅力ある場所づくりをしていきたいと思っています。(河)

回覧板



子どもの数が減り、地域での行事には、習い事等で忙しいため参加できない人が多く、来るメンバーは、いつも同じで変わりません。数年に一度まわってくる自治会の班長の仕事で、回覧板をまわすときも、ポストに入れてしまうから、顔を合わせがちよっと立ち話もありません。親自身が地域との関わりを持っていないのだから、子どもも同様でしょう。また、両親が共働きだから、みんなの休みが重なった時は家族での時間を大切にしたいとレジャーに出かけます。それはとても良い事ですが、結果、地域活動よりも優先されてしまいます。せめて時間があるときは、どうか子どもを地域に送り出して下さい。ご近所の人を見かけたら笑顔であいさつしてみして下さい。うちの子もよその子と同じ時期を過ごして育つのですから…。(大)

地域の子どもは地域で育てましょう。

お世話精神



私は、ある高校のPプロジェクト

クトにボランティアとして参加しています。ボランティアで来ていると言うと、今どきの高校生は「お金もらえば？」と言います。ボランティアは、本人の気が向けばいい、都合に応じてやらない選択も可能です。時間と気持ちに余裕があり、周囲の力になりたい等の、お世話精神を

を支えに本人の自己満足で成り立つものだと思います。子どもがお世話になっっているのだから、何かお手伝いができれば自分が嬉しいのです。他人に強要できないことだからこそ、自身で決め、楽しく行っていきたいと思っています。(山)

仲間づくり



や地域差や学校差ではない。小学3、4年生頃の育ち方である。』強くなり、まわりが見えてきて相手の心を理解でき始める頃です。その時期に、ゲームなどの孤独な世界にいと、相手の心を感じて体験もなく、仲間づくりが難しくなることでしょう。今は、地域での子ども会活動への参加が減っているようですが、地域の公民館や集会所等で、定期的に、子ども達の居場所集まる場所があったら、仲間づくりができるのでは、と思います。そこで何をやるかは、子どもが主体で決めていく。その場所に、地域の大人も関わっていったらいいのに…。大人も地域の子どもたちが見えてくることでしょう。(吉)

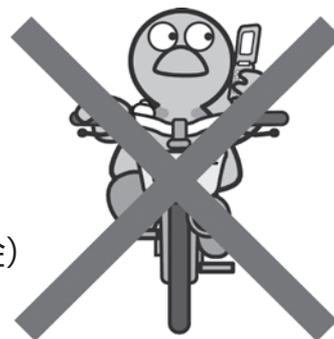


守ろう自転車のルール

1. 歩道は歩行者優先（3ヶ月以下の懲役または5万以下の罰金）
2. 左側を走ろう（3ヶ月以下の懲役または5万以下の罰金）
3. 子どもはヘルメットをつけよう
4. 安全ルールを守ろう
 - ・ 飲酒運転は禁止（5年以下の懲役または100万以下の罰金）
 - ・ 二人乗りは禁止（5万以下の罰金）
 - ・ 並進（並んで走る）は禁止（2万以下の罰金または料料）
 - ・ 暗くなったらライトをつける（5万以下の罰金）
 - ・ 信号を守る（3ヶ月以下の懲役または5万以下の罰金）
 - ・ 交差点では安全確認（3ヶ月以下の懲役または5万以下の罰金）
5. 傘さし・イヤホン・携帯電話は禁止（5万以下の罰金）



KOBATON



KOBATON

平成二十四年度 桶川市青少年健全育成 市民会議総会

五月十九日（土）、桶川市東公民館大ホールにおいて、今年度の総会が行われました。

総会后、NPO法人全国万引犯罪防止機構普及推進員の稲本義範氏をお招きし、「子どもを地域の目で見守る〜青少年の万引犯罪の実態から〜」と題して、万引被害の実態と地域の大人の役割について講演をしていただきました。

おげがわ春のふれあいフェスタ

白田実行委員長のもと、構成団体の皆様と実行委員会を重ねてまいりました。おげがわ春のふれあいフェスタ。五月十三日（日）、無事三回目のフェスタを駅西口公園にて開催することができました。

雲ひとつない絶好の五月晴れの中、各参加団体によって食品の販売、ステージでの催し物、ダンボールのトンネルくぐりなどが行われ、皆さんが楽しんでいらっしやいました。歩行者天国としたマロニエ通りからけやき通りに至るまで、会場は約一万二千名の人で大盛況でした。今年もまた炭の会の皆様に竹



製の義援金箱を用意していただき、東北地方の復興支援も行いました。皆様、大変ありがとうございました。（洪）



非行防止キャンペーン

七月九日（月）夕方から桶川駅周辺で非行防止街頭キャンペーンが行われました。当市民会議構成団体をはじめ、上尾警察署員、市職員、桶川駅長も参加して青少年の非行防止を訴えました。

十一月三日（土）桶川市民まつりにて非行防止キャンペーンが秋晴れの中山道において行われました。朝のパレードに参加した後、風船やリーフレットを手渡しながら青少年の非行防止を訴えました。

編集後記

市民大会で講演された辻川牧子先生が「言葉（言葉の力）」についてお話されていました。江戸では、「刺し言葉」は使わないことがルールだったそうです。私たちが普段何気なく使っている言葉が、子どもの心を傷つけたり、子どもが知らずに使って他の人を傷つけたりすることもあるのだと改めて考えさせられました。

子どもの社会は、大人の社会の鏡だと言われています。私たち大人が自ら範を示し、お互いの絆を深めていくことが、子どもたちの健全育成につながると思います。今まで以上に「世の宝」である子どもたちを、家庭・学校・地域が一体となって見守っていく社会になることを願っています。（家）